

## 12月一般質問の町長答弁から

●町の建設事業に実施にあたっては、さまざまな事情を勘案した中で必要に応じて、関係機関等との協議やニーズ調査を実施し、さらに優先順位と財源を考慮し総合的に判断している。

### ■フットサル建設にあたっての関係機関先

フットサルコート建設にあたっての、関係機関先を間違えている。

町観と相談したならば観光施設。収入を考えなければならない。

収入を考えず、地域の町民・子供のためならば、体育協会や教育委員会・PTA等と相談した方がより住民のための施設となる。

■問 今回のフットサルコートは、事業費が9000万円。年間利用料は、5万円くらい。テニスコートの使用が少なくなっているのでフットサルコートを建設したいとの事だった。しかし、テニスコート、陸上競技場などが使用頻度、費用対効果があると思われるのだが？

●答 費用対効果は関係なく、少年サッカーの使用頻度が高い。

※ここで、町観の要望、相談で建設されたものであれば、費用対効果を考えなければならない。体育協会や教育委員会・PTAと相談していれば、現在、人口芝のテニスコートはないので、1面は、フットサルコート、もう1面は、人口芝のテニスコートを建設することができたように思える。人口芝テニスコートであれば、中学生のソフトテニスも使用できる。

■問 サッカー、フットサル愛好家が湯沢町に何人おられるのか。

●答 把握していない。

※何人おられるのかを把握せず、フットサルコートの運用計画、利用計画も全く無い状態で建設された。

※フットサル2面でどのように観光で使用していくのか？波崎はサッカーコート100面近く、菅平は50面近くある。他の地域に何を持って対抗していくのか。

■問 フットサルコート建設にあたって、湯沢町体育協会に、サッカー連盟、フットサル連盟はないが、湯沢町体育協会とは相談したのか。

●答 していない。

※子供のためならば、体育協会や教育委員会・PTAと相談しなければならない。

■問 こんな収入でもまだナイター照明設置に2500万円もかけるのか？

●答 選挙中や懇談会等で要望があったので設置する。夜しか使用できない愛好家もいる。子供もナイターで練習させたい。

※また、同じことを繰り返している。ナイターで使用する人数や子供の数も把握

していない。ナイターでのフットサルコートの利用予定計画書もない。

あれほど活動している少年野球でさえナイター練習はしていない。

計画書がないままに、週何日使用するのか、月何日使用するのか把握せずに、2500万円もかかるナイター照明を付けようとしている。フットサルコート代9000万円+ナイター照明設置2500万円、全部で1億1500万円の事業費となる。

※裏面に来年度の予算方針を載せています。

## 障がい者の親がいなくなっても安心して暮らせる町づくり

■問 ろう者が手話で生き、生活する権利を町長はどのように考えるか。

町長の『所信表明』のなかの「年齢や性別、障がいの有無や国籍などにかかわらず、このまちに暮らす誰もが、心豊かに幸せを実感できるまちづくりを進める」とのこと。

●答 手話で生き、生活する権利は尊重されなければならない。

■問 町民課でろう者に対し言葉を文字に変換する機械を設置をできないか。

謹賀新年  
第013号 2018/01/18  
949-6103 新潟県南魚沼郡  
湯沢町大字土樽232



Donco  
新聞

並木としひこ後援会

<http://donco.jp>



070-2155-3047  
toshi@snow.co.jp

●答 どういう事が町にできるか研究していく。

■問 生活に当たって衣食住の拠点となるグループホームは、障がい者の親にとって最も心配な事であり町長はどうお考えか。

●答 戸建ての賃貸住宅を考えている。障がい者の方が一緒に住み仕事がある事が大

事だと認識している。湯沢町がどのようなことができるのか検討していく。

■問 町内の企業において、障がい者の雇用状況は。町として、障がい者の雇用をどのように考えているのか。

●答 町内では、建設業、宿泊業で雇用されていると聞いている。就労は大事だと考えている。

## ■平成30年度当初予算編成方針 湯沢町長 田村正幸 一部抜粋

内閣府が8月26日に発表した国民生活に関する世論調査では、現状の生活に「満足」とした人は、前年より3.8ポイント増え73.9%と過去最高になった。前年と比べ生活が「向上している」は前年より1.1ポイント増、「低下している」は2.8ポイント減だった。また、同じく内閣府が発表した8月の景気ウォッチャー調査（街角景気）によると、甲信越地域の現状判断指数は2か月連続で改善しており、2～3か月先の予測を示す先行き判断指数は、好不況の分かれ目とされる数値を上回った。

このような報道を目にすると、日本の社会や経済は順調に回復してきていると思われるが、湯沢町を取り巻く環境は依然として厳しいと言わざるを得ない。

湯沢町の歳入は町税の78%を占める固定資産税に依存する構造となっており、大規模な資産の増加がない限り町税収入は年々減少していく。特に、平成30年度は固定資産税の評価替の年度となるため、平成29年度より1億8千万円もの減少が見込まれている。

歳出では、町有建物・道路・橋梁などの施設が更新時期を迎えており、平成30年度実施を予定している城平跨線橋は一部分の改修でも5億円規模の事業となる見込みである。公債費も平成29年度より8000万円の増加となる。このような、歳入の減少と歳出の増加が見込まれる厳しい財政状況であることを職員には理解いただきたい。

また、町民の人口がゆるやかに減少しているなかで、生産年齢人口はそれよりも早いスピードで減少していることから、町民税収入の減少や町内経済の後退が懸念される。人口減少へがこのまま続けば町全体の活力が衰え、次世代を担う世代に「安心して住むことのできる町」を残すことが難しくなる。

平成27年10月に策定した湯沢町総合戦略は、2040年に人口6650人を維持することを掲げており、そのための関連施策は平成31年度までの数値目標を掲げている。そのため、来年度は益々重要な年度となる。改めて言うが、町の魅力を高め、人口減少を克服し、地域社会を維持していくことが、将来に向けた大きな課題である。そのことを意識し、職員ひとりひとりが何が必要か、何をすべきかをよく考えてもらいたい。

以上を踏まえ、予算要求については次の専項に特に留意し、事業の必要性、目的と効果をしつかり検証してから行うこととする。

●これだけの湯沢町の厳しい状況を職員に方針を示したにもかかわらず、フットサルコート  
の照明設置、議長の一般質問に答えての童画美術館の任期内での建設予定。町民のためになるよう、しっかり計画を立てた上での実行として頂きたい。

■私の公約に事業をするにあたって

『「誰のために」「何のために」「どのように」「どのお金を使って」「いつ」「誰が」と経過報告、有効であったかなかったかを明確にすることを徹底します。』とあります。

今回のフットサルコート関連は、「誰のために」「何のために」が明確になっていない。』